

THE COFFEE TIMES

Economics

- Coffee -

Society -

Project

TAKE
FREE

PERU

SAN PEDRO

V o l .

0 3

2 0 1 9

About Peru

- 人口:3,216万人(2017:世銀)
- 首都:リマ
- 言語:スペイン語
- 主要産業:製造業, 石油・鉱業, 商業, 農業, 建設業
- 名目GDP:2,113億ドル(2017:世銀)
- 経済成長率:2.5%(2017:世銀)
- 失業率:6.9%(2017:ペルー情報統計庁)

Coffee in Peru

- 生産量(2018/19):430万袋(60kg袋)estimate
 - 生産国ランキング(2018):第10位
- 南米ペルーは、インカ帝国、ナスカの地上絵、マチュピチュといった歴史的な一面を思い浮かべる人、またはアンデス山脈、チチカカ湖などの自然と融和した一面をイメージする人などさまざまかとは思いますが、その他『美食の国』、『資源大国』、『安定した経済成長や財政運営』に定評があります。一方で『貧富の差』、『女性差別』などの社会問題が根強く残っている面も忘れてはいけません。

まず、ペルーのコーヒーに関する情報としては、コーヒー生産量ランキングは世界第10位(430万袋≒2億5,800万kg, 2018/2019年estimate)を誇り、南米ではブラジル、コロンビアに次ぐ第三の生産国です。しかし、ペルーの総輸出額(442.3億USD/2017年)に対してコーヒーの輸出額は7.1億USDとわずか1.6%と非常に少ない状況です。

もともと鉱物資源が豊富なペルーは、輸出額のうち銅が31.3%、続いて金が16.1%を占めています。2017年はこういった伝統製品の資源価格が前年比で大きく上昇したことにより、輸出額も伸長しました。



ちなみに、ペルーのコーヒーは、生産量でいえば世界第10位ではあるものの、日本の消費者の中ではまだまだ珍しい生産国の内の一つといえます。その理由としては、南米には世界最大の生産国ブラジル、そして第二位のコロンビアがあるため、どうしても影をひそめてしまいます。また、輸出先としては、ヨーロッパ圏が全体の輸出額の60%近くを占め、日本に至ってはわずか1%弱、金額にして900万USDにとどまっています。

コーヒー産業に従事している人口は約15万人~20万人(全人口3,123万人(2017年)の約0.5%)とやや少なめですが、アンデス山脈の麓には、優しい甘さを持ったマイルドボディの高品質なコーヒーが生産される環境が広がっており、また輸出入業者の積極的な働きかけもあり、ペルーはオーガニックコーヒーへの取り組みを積極的に行っています。

そんなペルーのコーヒー栽培の歴史は、1700年代から始まります。ティピカ原種の栽培から始まり、基本的にはそれぞれの保有地(2-3ヘクタール)で栽培している小規模農家が大半です。

現在でも全体の70%はティピカ種が栽培されており、残り20%がカツーラ種、10%その他といった分布です。加えておおよそ75%は海拔1,000m ~ 1,800mの間で栽培され、シェイドツリーの下で育てられ、1haで約2,000本のコーヒーの木を栽培しています。

厳しい環境下でコーヒーの栽培をしている小規模農家ですが、信用リスクが高いとみなされ、金融機関からは登記されていない土地は担保としても扱ってもらえず、資金調達面では難しさがあります。

そこで、コーヒーの集買業者などが貸付をすることもあります。その結果、固定価格での買取や高い利息の支払いをしなければいけないということもつながり、ジレンマがあります。

過去生産者たちは、自分たちの作物がどのような飲み物になるのかを知らずに、ただパートナーコーヒーを重量によって販売していました。

しかしながら、ここ十数年でペルーでは小規模農家の協同組合が組織され、今までの搾取的な取引慣行に対する説明を行うなど、前向きに取り組む場を提供しています。

そして協同組合では、収穫後のチェリーの取扱を改善したり、より効果的なマーケティング戦略を実践したり、結果としてより良い賃金を得るために努力しています。大きな組織では、2,000以上もの生産者が所属しています。また、より整った組織では、生産者へ貸付を行えるような機構を有し、品質向上、歩留まりの改善を目指しています。

現在、10万以上の小規模農家の内、およそ15-20%が組合に属しており、これらの組合は農家の成長を促すため、フェアトレードやオーガニック取引のネットワークに属しています。このようなビジネスパートナーシップを築いてきた結果、ペルーは瞬く間にフェアトレード認証のコーヒー供給国として世界第2位となりました。現在、ペルー国内では9,000haものオーガニックな土壌が作られています。

尚、よく手入れをされた土壌では、1haあたり2,500kg(42bags/60kg)が生産されます。平均すると、17/18cropでは683kg/ha、18/19cropでは716kg/haの生産と予測されています。

ここで、土壌の管理について触れてみます。ペルーでは、古くなったコーヒーの木や収穫量が減ってきた木、病気の木を植え替えるとなると、\$3,000/haもの費用がかかります。ただ、この作業は一般的には20-30年に一度のようですが、それとは別で毎年木々のメンテナンスなどにも\$1,200/haがかかっています。そのようなメンテナンス費用や労働者への賃金などで、平均コストとして\$1.75/kgがかかっており、労働者への支払いが約49%を占めています。

ここまで見てきたように、ペルーのコーヒー産業としては、小規模農家が多く、情報の欠如を一因として集買業者によって安い価格でコーヒーを販売してきた状況から、徐々に組織化が進み、情報へのアクセスがスムーズとなり、現在は認証コーヒーの主要生産国として認識されるまでに成長しています。

続いて、ペルーの経済状況や国の情勢についてご紹介していきます。

まず数値データを見ていきます。ペルーの名目GDPは2017年で2,113億ドルであり、一人当たりGNIに関しては5,960USDです。

ペルー経済に関しては、1990年代に導入された自由主義的マクロ経済路線が広く定着し、近年でも2006年～2015年の平均経済成長率は年率5.9%を保ち、中南米でも有数の経済国家となっています。経済構造は伝統的に金や銅などの鉱物資源の輸出によるところが大きいものの、一次製品の生産増、輸出強化など、多角的な経済構造へのシフトを進めています。



また、ペルーはTPPに代表される多国間経済協定やFTA、EPAなどの二国間経済協定にも積極的に取り組み、貿易の90%以上は二国間協定の締結国との取引になっています。このような比較的安定した経済、社会構造のペルーにおいて、一番大きな課題の一つが貧富の差です。全体の貧困率などは年々減少してきており(2004年58.7% → 2017年21.7%)、今のところは安定した経済成長に守られた運営がなされていますが、地方都市への教育インフラなどのサポートが必要となっています。

そこで、ペルーでの社会起業家を調べてみると、スタートアップへの中間支援や教育事業、ヘルスケア事業などが多く、また対象となっている地域は貧困地域での取り組みが多くなっています。

《NESsT》 social investment

社会起業家への投資、サポートを通して貧困削減に取り組むNPO。過去20年間での実績は15.2百万USD、187もの起業家へのサポートを行っている。活動エリア中欧、東欧及び中南米。現在ペルーでは、農業、水資源、環境保全、女性の雇用促進、加工業など、幅広い分野の起業家への投資をおこなっている。

《HELP PERU》 support organization

2013年に設立されたHELP PERUは、ペルーの恵まれない人々をサポートする活動への投資やドネーション、そしてソフト面での支援を積極的に行っています。特に教育、ヘルスケア、コミュニティ形成などに注力しています。

《Sembrando Juntos》 education

0歳から5歳までの幼児教育を提供する団体。前身となる教育センターは1985年に2人の英語ボランティアがペルーを訪れ、小さな家での教育サービスWestnell Nurseryを始めたことにさかのぼります。現在ではWestnell Nurseryに加え、2つのセンターをそれぞれ別の地域(貧困地域)に開設し、教育サービス及び初等教育を継続できるような経済的支援、啓発を行っています。

《Peru Champs》 education

貧困地域に暮らす人々の中には、経済的理由により就学が困難な児童がいます。そういった中でも、芸術、スポーツ、またリーダーシップにおいて優れた児童に対して、経済的サポートとともに、ワールドクラスの教育施設での就学を可能とさせる児童個人に対するオンライン支援プラットフォームを運営。2009年の設立からすでに46,000人の児童への就学機会を提供している。

《Kunan》 social impact support platform

ペルーにおける社会起業家の支援プラットフォーム。各分野での起業家の活動に対して、相乗効果を生み出すようなネットワーク創出や広告としてKUNAN TVでの紹介などのサポートを行っています。また、サポートしている社会起業家は環境、農業、ファッションなど、多岐にわたります。Kunanの基礎は、1994年に設立されたPERU2021というNPOにあります。PERU2021は独立200年にあたる2021年に共通の国家ビジョンを明確にするミッションからスタートし、のちに中小企業への持続可能な開発に向けた提言などビジネスモデルの確立をサポートしています。また、ダイナミックな活動に不可欠な国際的な組織との戦略的な連携も多岐にわたって行われています。

新興国ペルーでは、非常に多くの社会起業家が活躍し、またそれらのビジネスを支えるプラットフォームが多く見受けられました。

貿易、経済の面で国外に対してオープンな側面を持ち、また国内に対しても起業家精神が根付く環境作りに早くから取り組んでいたことが今の安定した国づくりに貢献しているのかも知れません。



続いては、現在店舗で取扱っているコーヒー豆についてご紹介していきたいと思います。

その前に、ペルーにある生産者組合の一つCENFROCAFEについて少しご紹介したいと思います。

CENFROCAFE

1999年に結成されたCENFROCAFEは、Jaén、San Ignacio、およびBaguaの各地域11のネットワークの84拠点に、3,000以上の家族が所属する協同組合です。

他の協同組合同様に、医療サービスの提供、住居の提供など、所属組合員に対するケアを行っています。

また、金融サービスや組合としてのマーケティングも担っています。

そして、組合としてフェアトレード、オーガニック、レインフォレストアライアンスなどの認証を取得しており、それぞれ専門的なマーケットへの参入も可能にしています。

本来、ペルーは優れたコーヒーの生産にとっても適した環境が整っています。例えば、標高や品種、肥沃な大地などです。



しかしながら、山岳地帯での収穫後、山裾の水洗工場まで持っていく必要があるなど、品質を維持するには困難な状況にも置かれています。その移動の間でコーヒーチェリーは大きなダメージを受け、品質劣化にもつながり、安定した品質の供給が難しい環境でもあります。

このような環境の下、数年前まで道路も舗装されておらず、馬やバイクが山裾の町との唯一の交通手段だった小さな村から素晴らしいコーヒーが生み出されました。

フレディ・ベルメオのいる、タバコネスのサンペドロ・デ・チュルヤク地区は、非常にユニークなカッププロファイルで、北ペルーで最も成長している地域の一つとして長い間考えられてきました。

彼は父親から最初の5ヘクタールの土地を継承し、以来近隣の土地所有者からさらに7ヘクタールを取得しています。彼は約15年間コーヒーを栽培してきましたが、2011年以降、生産と品質の向上に専念しています。

フレディは自身の水洗工場ですべての精製工程を行い、ゆっくりと均一に乾燥させ、コーヒーの品質を保っています。

その結果、彼は2017年に初めて開かれたペルーのCup of Excellenceでカソーラのマイクロロットで見事3位を獲得しました。

(商品除法)

- 地域：サンイグナシオ/タバコネス地区/
サンペドロ村
- 生産者：フレディ・ベルメオ
- 標高：1,800m
- 精製方法：ウォッシュド
- 品種：ブルボン
- 香り：ネクタリン、アップル、ミルクチョコレート
- 味わい：アップルのようなみずみずしい酸とネクタリンに似たしっとりとした質感。
- 認証：有機JAS認証、RA認証

